情報を一元化できたことで、業務負担が軽減。ご入居者さまに向き合える時間が増えた！

導入施設

株式会社サンガジャパン

■ 施設情報
介護付有料老人ホーム
しゃくじい台翔裕館
〒177-0045
東京都練馬区石神井台 7-12-22

■ 施設情報
デイサービス・介護付き有料老人ホーム
西おおいずみ翔裕館
〒178-0065
東京都練馬区西大泉 1-23-7

介護 ICT の導入が進み、現場にはさまざまなセンサーが設置されるようになりました。

転倒・離床・見守り・バイタルなど、役割の異なるセンサーが次々と導入され、それぞれが大切な役割を果たしています。

しかし、そんな中で新たに浮かび上がってきたのが、現場職員の“情報確認の負担”です。
「センサーが増えるほど、見るべき画面が増えてしまう」
「いくつもの画面を行き来しないといけない…」

これは、私たちが全国の介護現場を訪れる中で、たびたび耳にしてきた声です。便利になるはずの ICT が、逆に“新しい悩み”になってしまっているのです。

そんなお悩みを解決するために誕生したのが、「ケアデータコネクト」です。

そして、今年4月に日本で初めて東京都練馬区の《しゃくじい台翔裕館》《西おおいずみ翔裕館》に「ケアデータコネクト」を導入しました。

今回は、しゃくじい台翔裕館 施設長代理　田中さまに、導入前に抱えていたお悩みや、導入後に感じた変化・効果についてお話を伺いました。

写真：しゃくじい台翔裕館 施設長代理 田中さま

見るべきもの持つべきものが多い

本来、注力すべきなのは、ご入居者さまの生活を支えるための丁寧なサポートです。それが私たちの使命であると考えています。

しかし、現実にはセンサーの画面、記録入力用のタブレット、別のセンサーの受信機、コール用の PHS など**「見るべきもの」「持つべきもの」が多く、業務の効率性や集中力に大きな影響を与えていました。**

特に夜勤帯はスタッフの人数が限られるため、1 人あたりの負担が非常に大きく、業務が円滑に進まないことが、現場の大きな悩みとなっていました。

スタッフ一人ひとりがご入居者さまに向き合うことができるようになった

「ケアデータコネクト」の導入により、複数のセンサーから得られる情報が一元化され、現場の情報が整理されました。これにより、スタッフはどこにいてもご入居者さまの状況を把握し、迅速に対応できる体制が整いました。

さらに、確認すべき画面や端末が1つに集約されたことで、業務効率が向上し、スタッフ一人ひとりの業務負担も大幅に軽減されました。

その結果、**記録や情報確認・機器対応に追われる時間が減り、本来もっとも大切にすべき、ご入居者さまと向き合う時間をしっかり確保できるようになったことこそが、最大の効果だと感じています。**

何よりも重要なのは簡単で迷わないこと

この施設で働いているスタッフの中で、最も若い方は 20 歳代。一方で、最高齢は 70 歳代。平均すると 40 歳を超えているのではないかと思います。

若い方がこの業界に飛び込もうと思うこと自体が少なく、「プライベートを確保・充実しながら仕事がしたい」と考える方が多いのが現実です。だからこそ、若い年齢から介護の業界で働いている方々には、感謝と尊敬をしています。

それほどまでに、業界全体としてスタッフの年齢層は高くなってきているのです。

年齢を重ねたスタッフの中には、見守りシステムやタブレットなど、ICT機器に苦手意識を持っている方も少なくありません。そして、「どの画面も、どの情報も重要」であることは理解しているからこそ、「使いこなせなかったらどうしよう」という心理的な不安を抱えているケースも多いのです。

だからこそ、**介護 ICT において最も大切なのは、「誰でも簡単に触れられること。誰でも迷わず使えること。」**
それが何よりも重要なのではないかと、私は感じています。

「やさしさ」のある設計に期待

先ほども述べたように、介護の現場ではスタッフの年齢層が高く、ICT 機器の操作に苦手意識を持つ方も少なくありません。

実際に「見守りシステムや記録端末が増えると、何をどこで確認すればいいのか分からなくなる」といった声も多く聞かれます。

だからこそ「ケアデータコネクト」には今後ますます、
・見ればすぐに使える直感的なUI
・現場の声に寄り添った継続的なアップデート
といった、“やさしさ”を備えたシステムとしての進化を期待しています。

今回のインタビューを通じて、ICT 導入が現場の業務効率化やケアの質向上に貢献していることが実感できました。

一方で、使いやすさのさらなる追求や現場の声に寄り添った改善は、これからの大切な取り組みとなります。

今後も現場の声を大切にしながら、より一層の改善に努め、ICT を通じて、介護現場の未来をともに築いていきたいと考えています。

CARE DATA CONNECT